

2021 年 4 月 号

2021 年 5 月 10 日 発行

NPO 法人 わっか

月次報告書



28



だれもが、まるごと受けとめられる社会をつくる

わっかは、だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、

子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、

さらには、地域社会においても、

その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り

仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わっか」は、2014年3月から活動をおこなっています。

活動当初は、月に1回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。

遊び場に来てくださる方の声に応えたくて2015年7月から、古民家の開放をはじめました。

毎週月曜日の放課後、日曜日は月に1、2回開けることから始めた古民家開放は

わっかを通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。



第二十八号

目次

学童保育とは？シリーズ①	柳生のび	4
若者を取り巻く環境について 第一回	佐藤真紀	5
お弁当・おかずづくりを通じて	あすか	7

事業報告

月ようわっか	8
平日わっか	9
日ようわっか	10
4月にいただいたご寄付	11
編集後記	12

学童保育とは？シリーズ① わっかののびが語る学童保育の世界 柳生 のび

現代では、学童保育は多くの人に知られている。特に、ここ一年余りの新型コロナウイルス関連の話題の中で、学童保育はかなり取り沙汰されたため、恐らく、認知度はさらに上がったと思われる。一方で、学童保育の脆弱さも露呈する結果にもなった。全てではないが、地域よって質に大きな差があるため、劣悪ともいえる環境で子どもを保育している学童もまだまだ多い。また、スタッフも十分とは到底言えない労働条件で働かされていることも、改めて、みえてきた。それもそのはずで、学童保育は、ここ十年余りで、やっと法整備や制度の仕組みが形になってきたばかりだ。まだまだ、地域格差や質への担保としては、仕組みも十分とは言えない。

ここでは、シリーズで学童保育について、私的な経験を交えながら、読者に一体どんなものなのかをお伝えしていけたらと思っている。ただ、歴史を年表に基づいて、詳しく丁寧に説明するようなことはしない。それよりも、どんな思いで、この学童保育というものがはじまり、どんな風に時代の変化の中で成長してきたのかを、少しでもお伝えできたらと思っている。

先に、表現について少し注意をお伝えしておく。学童保育、今は正式には「放課後児童クラブ」と言われている。ただ、学童保育と言われている時代の方が長いので、そちらの方がよく知られている。略して「学童」とみんなよく呼んでいる。そのため、このシリーズにおいては、学童保育（放課後児童クラブ）について語るとき、「学童」と呼ばせてもらうことにする。

ボクがそもそも「学童保育」を知ったのは、十年ほど前で、当時は、兵庫県神戸市に住んでいたもので、神戸でも山手の団地にあった学童で働き出したのがきっかけだ。学童は、今以上に厳しい状況で運営されていたので、時給八三〇円ぐらいからのスタートだった。神戸の町中で信じられないくらい安い給料だったわけだ。なぜ、そんなことになるのか、少し説明すると、そもそも学童には、実は様々な運営体系があるのだ。昨今、民間学童の台頭で様相は大きく変わってきているが、そもそも、学童の運営の多くは父母会だった。どういふことかと言うと、子どもを学童に預けている保護者が運営の一切合切をやるといふこと。つまり、保護者は子どもを預けながら、利用料等を含めた予算の管理を行い、スタッフを雇用し、行政との様々な交渉事もこなしているという状況だ。運営する団体によって異なるが、スタッフも運営に関わり、保護者と一緒になって学童の切り盛りをすることも珍しくなかった。

ボクが最初に働いた学童も、まさに、この父母会が運営主体になった学童だった。この形でどうやって運営をしていくかという点、収入のひとは保護者が支払う利用料、もうひとつが行政の補助金だ。これが、くせ者で、利用児童数によって予算配分する仕組みになっているため、毎年の利用児童数によって変動する。そのため、安定運営が難しく、毎年、火の車状態で運営せざる得なかったという側面がある。当時、保護者からいただく利用料も一万五千円から一万八千円ぐらいの価格帯で決して安くはない。それでも収入としては十分ではなかったため、地域向けのイベントや行事をすることで、そこで売上を出して、運営の足しにしていたくらいだ。そんな運営の中でも人件費だったため、時給八百三十円からスタートだった。ボクの学童人生はここからはじまった。

この連載を始めるにあたって、第一回目の今回は若者たち、子どもたちがおかれた環境の変化を見ていきたいと思えます。そのまえに「子ども」「若者」とは、奥が深く、とても浅学の私では語り切れないし、心理学的立場で見ると、教育学の立場で見ると、社会学の立場なのか、それとも私が関わる福祉の立場で見ると、大きく異なっているものです。さらに福祉の中でも子ども家庭福祉と言われながら、その中でもさらに少年非行、社会的養護か、貧困研究などの分野で視点が異なるのが実情です。この一年を通して、できる限り平準化した話を展開させていこうと思いますが、あくまで実践者としての私の目を通して見ているものだとご了承願います。

さて「子ども」「若者」とは、いかなる存在なのでしょう。その表記のしかただけを取り上げても「子供」「子ども」「こども」と議論的になることがあります。また、呼び方に関しては、古くは「みどりご(嬰兒3歳くらいまでの子)」「餓鬼(ガキ)」「わらべ」「こわっぱ」などと言われていたこともありました。また、現代でも「赤ちゃん」「児童」「こども」など、その存在そのものを指し示す言葉は無数にありますし、俗語や方言を含むとより多くのものがあるでしょう。

そうした子どもですが、0歳児は乳児と言われたり1-6歳は幼児と言われたりと年齢など、また各法律によっても「子どもは何歳から何歳までか」ということは変わってきます。そして、法律だけでなく、関係によっても子どもの定義は異なります。たとえば、成人をしたとしても、親から見たらずっと「子ども」というポジションであるように。

そうした多義的な意味合いを含む「子ども」「若者」という言葉ですが、関わっていると、しばしば「子どもが少なくなったね」と聞くことがあります。または「最近の小学校はクラスが少なくて」ということも聞かれることがあります。果たして、子どもはどこへいったのでしょうか(当たり前だが、大多数は成長して大人になっています)。

2019年の国民生活基礎調査を紐解くと、1986年今から35年前の「児童のいる世帯」は46.3%です。それが徐々に減少し、2019年には21.6%まで減少しています。つまり、子どもがいる世帯は35年前と比較して半数以下へと減っていますが、単にこれを子どもが減っているというひとつの現象に矮小化してよいものでしょうか。

この40年間には、家庭構造、就業構造の大きな変化もありました。男女共同参画白書(令和2年版)から引くと「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」は1980年の1114万世帯から2019年には582万世帯へと減少し、「雇用者の共働き世帯」は1980年の614万世帯から、2019年の1245万世帯と倍増し、1996年でそれぞれの値が逆転しています。直近でも人材仲介企業のランサーズが2021年3月31日に公表した資料では、自由業者などの国内のフリーランス人口が約1670万人になり、この一年で57%増加したとのこと。背景には、失業や雇用不安等も指摘されますが「雇用される働き方」からの個人で立脚していく時代への回帰かもしれません。他方で、そうした「自由」や「選択肢」を選ぶことができない人も多くいることは事実であり、また誰もがフリーランスで生活できるわけではありません。資格や実務上のスキルだけでなく、営業や経理などの仕事も一人もしくは少数のチームで行うことになるのですから。しかしながら、週60時間以上働く雇用者は、男性が9.8%、女性が2.3%(2019年度男女平等参画白書(令和2年度版))と、男性に負担のしかかっていますし、家庭内の家事や育児は女性に負担が重くのしかかっています。

そうした中で「家事負担のアウトソーシング化」として、「妻が大変ならば」「お金で解決できるものは」とベビーシッターや掃除を外部業者に委託すればよいのではないかとこの言論も散見されるようになります。

そして、東京都などの一部自治体では、ベビーシッター等の利用への助成金が家庭に支払われるようになりました。ただし、これらは「持てる者」「持てる自治体」での話であり、多くは安心して頼む先もなく、また助成金もありません。また、そうした仕事に従事する人は、十分に生活ができるだけの収入があるのか、近接的な解決だけでなく、遠位的な構造へのアプローチは必要なのかといった疑義があることも記しておきたいです。

このように今日、子どもが生活基盤としてきた「家庭」は著しく変化をしてきました。1970年代の休日にはデパートへと出かける生活様式から、90年代のコンビニの勃興と全盛期、そして2010年代からの「口の普及など」「ものを買う」といった行動ひとつとっても大きな変化です。そうした実相を捉えつつ、どう「子ども」「若者」を見ていくかは、ノスタルジックな感傷に浸っていても見えてきません。ですから、子どもや若者だけを取り上げても、本質は見えてこず、周辺をとりまく社会の変化に目を向けなければなりません。特に、子どもの声は聞きにくく、また法的権能も制限がされており、自分自身ではどうにもできない事象に取り囲まれているのですから。6歳になったら小学校に行くなんてことも「子どもが自分自身で選んでいる」ことのほうが少ないのではないのでしょうか。

様々な議論の中で、かつてはライフサイクル／家庭周期論(森岡清美 1973)と言って、人の一生は婚前期↓新婚期↓育児期↓教育期↓排出期↓向老期↓退隠期と、みんなが同じようなパターンを前提に語られてきた時期もありました。ですが、今は結婚するかどうかは、その人の選択肢ですし、法律上の家族を形成するかもさまざまです。ですが、就業形態もライフサイクルが提唱された1970年代とは異なりますし、ライフコース論というものも出てきましたが、そうした理論はまだ模索されている最中です。

個の家庭から、大きなデータの社会まで、その流れを見ていくと「固定」化されたと思わされていた子どもや若者、そして家庭も「流動化」し常に同じではないという視点を持つことがひとつのポイントなのかもしれません。流動化ということは、すなわち画一的なイメージで語るものがしづらくなり、同時に虚像にせよある一定のイメージが共有されていた「子ども」「若者」像がなくなることであり、周辺からは見えづらくなるということでもあるのかもしれませんが。だからこそ、変化のしにくい従来のイメージにとらわれるのではなく、定量データと定性データ、そして子ども・若者たちの語りから紐解かなくてはならないのではないのでしょうか。

今回は紙幅の都合上、さわりの部分のみになってしまいましたが、残り1回回は、そうした社会背景の変化を捉えながら、かつ「子どもの権利」「人権」「社会正義」といったことを主軸にして、それぞれのテーマをもとに紐解いていきたいと思っています。さしあたり、前半のテーマを示しておこうと思います。5月は「制服」、6月「性的少数者」、7月「進路」、8月「夏休み」、9月「親の就労」、10月「居場所」で行こうと思います。ですが、前後することや時流によっては変更になる場合もあります。どうぞ、よろしくお願いします。

さとうまき

精神保健福祉士・社会福祉士。岐阜県出身、東京都在住、米原にとときどき。2010年に岐阜県において学習支援を立ち上げ、各地でのネットワーク形成に取り組む。NPO 法人仕事工房ポポロ理事などを兼務し、東京でも子どもの貧困対策等の活動をしている。Twitter 19hz



先日、ひな祭りだったので
お弁当ちらし寿司にしてみたよ。

たけのこをたくさんいただいて若者でご飯会。

たけのこのフルコースとなりました。これぞホントの竹コース。

いろんなタケノコ料理に舌鼓しながら最近見ている YouTube の話で盛り上がりひきこもり生活継続中だけど

ああ、こうやってなんでもない話をしてご飯食べて、こういいのいいなって思う




プルーン入り食パン

スティックパンにもしてみたよ、プルーンは好きですか？

私は好きではないです。味見できんかった…。

プルーン好きには喜ばれました。

私が好きでなくても好きな人がいるから作るよ。だって、そもそもご飯派なのよ。

わっかとあすの木 @wacca_asunoki (Instagram) 

いままでのお弁当は、わっかホームページの Instagram で見てね。

毎週 月よう日 15:30 ~ 20:00

子ども 34 名 (27 名) おとな 7 名 (0 名)

月ようわっか

() 内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

毎週月よう日の放課後に必ずひられる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

4月5日 子ども 13 名 (8 名) 大人 2 名 (0 名)

メニュー：ご飯、ちんげん菜ともやし中華スープ、麻婆豆腐

4月12日 子ども 7 名 (6 名) 大人 2 名 (0 名)

メニュー：ミートソースパスタ、たらこパスタ

4月19日 子ども 13 名 (7 名) 大人 1 名 (0 名)

メニュー：ご飯、八宝菜、とうふと油揚げの味噌汁

4月26日 子ども 11 名 (6 名) 大人 2 名 (0 名)

メニュー：ご飯、焼き茄子の味噌汁、焼鮭、厚揚げと絹さやのそぼろ炒め



毎週 火～木曜日 13:00 ～ 17:00
金曜日 13:00 ～ 20:00

子ども 65 名 おとな 13 名

平日わっか

毎週火～金요일に開いている場です。参加費無料・申込不要。月요일と同じように、カリキュラムやプログラムは一切なしで、ただ開いている場です。そんな場所に集う人たちと、ゆったりとした時間を過ごしています。



ずっと前にわっかにきている方が持
つてきてくださって、そのまま椅子に
なっていた木。

2年か3年か置いていたのかな。地面
に面した方が腐食して、カナヅチでた
たくと、柔らかくて、簡単に崩れるの
を知って、それを壊すのを楽しんでい
ました。

その木も十分に壊した後は、古民家に
ある古い棚を壊しました。大きな声で
叫びながら壊す子どもたち。みている
こちらが、こんなふうにはできたら楽し
いだろうなと羨ましくなります。

ときどきあるよね、大声出したくなる
時、ちょっとやってみたくまりました。

だいのすけ

第2・4日曜日 10:00 ~ 15:00

子ども 23 名 おとな 11 名

日ようわっか

第2、4日曜日のお昼に古民家を開放しています。お休みの日なので、ここに、くるのは小学校高学年までの親子連れが中心です。親子で、きていた子が大きくなったら一人で「月ようわっか」にくるということもあります。



2021年4月に頂いたご寄付

物品でのご寄付 **5**名（団体）敬称略

古着（M）、お菓子（T）、かなづちなど（T）、のこぎり（O）、お菓子（A）

マンスリーサポーター **28**名

荒巻りか、石田智子、大溪麻紀子、後藤基志、佐藤笑代、佐藤真紀、佐藤桃子、柴原隼、鈴木愛子、津田千恵子、永峰美佳、西村、廣部奈緒美、藤澤彰祐、べっかむ、前田諭、マコトヤ、南出吉祥、三輪恵美、吉田尚子（敬称略）

都度ご寄付 **1**名

10,000円（匿名）

助成・補助団体、応援企業 **6**団体（2021年度）

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社、

公益財団法人 信託資本財団、タノシニア合同会社、マコトヤ、紙 eco

（敬称略 2021.5.10 現在）





編集後記

古民家の中も、すっかり暖房がいらなくなってきました。中山道に面した全開の引き戸から入り、そのまま裏にある山にぬける風が気持ちのいい時期になりました。

わっかにはいつもの人たちが。ふらっと立ち寄ってくれます。学校の終わりの子どもたちが、そのまま自転車にのって古民家に来て、暑いと言いなから寄付でいただいたジュースを飲む。そして、ほてった体が冷えたのか、そのままわっかの裏の小道にいったって、競争がはじまります。

ぼくは走る、女の子たちはキックボードや自転車で駆け抜ける。細くて短い小道ですが、ここでは車を気にせずに思いっきり遊べます。

そんな場所は地域になくなっていくのか、もともたなかったのかわかりませんが、思いっきり競争して意味もなく大声で叫んでいる子どもたちと過ごす時間が、これからも重ねられたらと願っています。

(だいのすけ)

ご寄付のおねがい。

わっかの目指す社会に共感していただいた方

子ども・若者の居場所になりうる活動

古民家をただ開ける、他にはない活動 を寄付にて支えていただけませんか。

わっかの活動は、活動をする我々、ご寄付による支援による2つの車輪で活動は行われています。我々は、古民家を開け、子ども・若者と何でもない時間を古民家で過ごしています。そして、そこで出会った子どもたちと子ども・若者と個別の関わりをもっています。

現在、年間、約70万円の寄付をいただいています。

古民家を1年間開けるには、家賃、光熱水費、食材費、消耗品費に年間、約80万円を必要としています。現在、28名のマンスリーサポーター、みなさまのタイミングでいただく寄付（都度寄付）によって約70万円のご寄付をいただける予定です。ただ、いまの活動を継続すること、さらには古民家をあける時間を少しでも長くすること、個別の関わりを充実させていくために、残り10万円の寄付を必要としています。

これまでの、7年間の活動で、古民家に来てくださる方がいます。集う時間以外でも、古民家の存在に安心でいるといった気持ちを届けていただいています。また、しんどさを抱えている方への個別のサポートも行えています。

わっかの運営は、みなさんのご寄付で支えられています。ぜひ、

月1000円から応援できる「わっかマンスリーサポーター」

ご自身でご金額やタイミングを選んでいただける「都度寄付でのサポーター」

にて活動を支えてください。

マンスリーサポーター登録ページ

<https://www.congrant.com/project/wacca/724>



マンスリーサポーター登録ページ

<https://www.congrant.com/project/wacca/1589>



団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059（代表）
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	https://npo-wacca.org
Facebook	 こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	 アカウント名 @NpoWacca
Youtube	 アカウント名 振角大祐